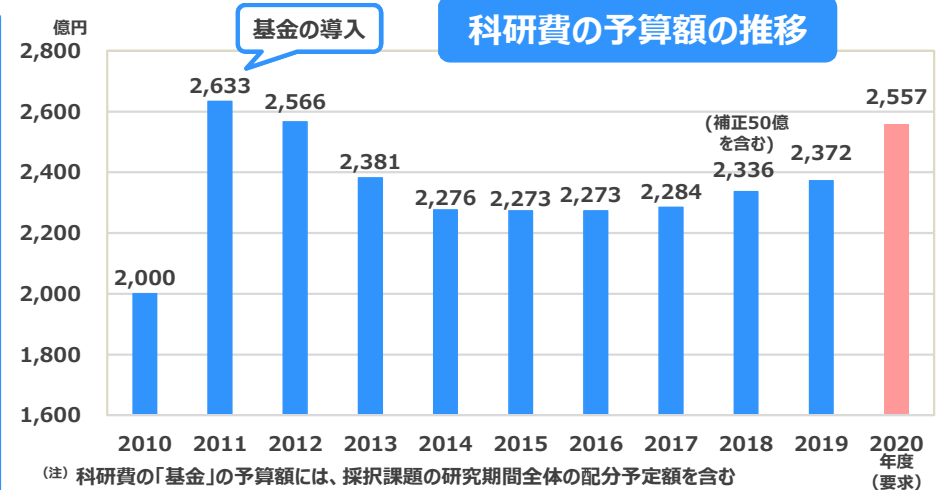


事業概要

- 人文学・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的資金」
- 大学等の研究者に対して広く公募の上、複数の研究者(7,000人以上)が応募課題を審査するピアレビューにより、厳正に審査を行い、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対して研究費を助成
- 審査区分の大括り化等による審査システム改革や、挑戦性を重視した研究種目の見直し等による「科研費改革2018」を全面展開
- 科研費の配分実績(平成30年度)
 - ・応募約10万件に対し、新規採択は約2.6万件
 - ・継続課題と併せて、年間約7.5万件の研究課題を支援



令和2年度要求の骨子

1. 新興・融合領域の開拓の強化 (「学術変革領域研究」の創設等)

- 「新学術領域研究」を発展的に見直し、次代の学術を担う研究者の参画を得つつ、学術の体系や方向の変革・転換を先導する新種目「学術変革領域研究」を創設
- 大括り化した審査区分の下で斬新な発想に基づく大胆な挑戦を促す「挑戦的研究」を拡充するとともに、若手を含むより幅広い研究者層の挑戦を促進するため重複制限を緩和(制度改善事項)

2. 若手研究者への重点支援 (若手の挑戦機会の拡大等)

- 若手研究者のキャリア形成に応じた支援を強化する「科研費若手支援プラン」の実行により、「若手研究」や「研究活動スタート支援」と併せて、「基盤研究」種目群を拡充するとともに、より大規模な研究への若手の挑戦を促進するため重複制限を緩和(制度改善事項)
- 次代の学術を担う研究者のリーダーシップの下、より萌芽的段階にある新興・融合領域の開拓を目指す「学術変革領域研究(B)」を創設(再掲)
- 若手の参画を必須として国際共同研究を加速する「国際共同研究強化(B)」を拡充

令和2年度制度改善の概要 (科研費の研究種目体系)



科学研究費助成事業「学術変革領域研究」の創設



本種目は、新学術領域研究（研究領域提案型）を見直し、**次代の学術の担い手となる研究者の参画を得つつ、多様な研究グループによる有機的な連携の下、様々な視点から、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導すること**などを目的として創設するもの。

見直しのポイント

- 次代の学術の担い手となる研究者の積極的な参画により、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導することを目指す。
- 助成金額や研究期間等に応じて、二つの区分を設置。
 - ・「学術変革領域研究（A）」：新学術領域研究（研究領域提案型）の後継となる区分であり、研究領域を幅広く発展させる研究である「公募研究」をより充実。
 - ・「学術変革領域研究（B）」：次代の学術の担い手となる研究者が、より挑戦的かつ萌芽的な研究に短期的に取り組み、将来の発展的なグループ研究につなげることを可能とする区分として新設。
- 各区分の目的等に応じた審査方式、評価方式を採用。
 - ・「学術変革領域研究（A）」：「公募研究」の審査において、審査の効率化と審査委員の負担軽減を図るため、2段階書面審査を採用。採択領域については、中間評価結果を次の応募の際に活用するため4年目に実施するとともに、フォローアップを2年目に実施。
 - ・「学術変革領域研究（B）」：応募金額を考慮し、応募者及び審査委員の負担軽減を図るため、書面及び合議審査により採択を決定。（ヒアリングは実施しない）

各区分の概要

・学術変革領域研究（A）

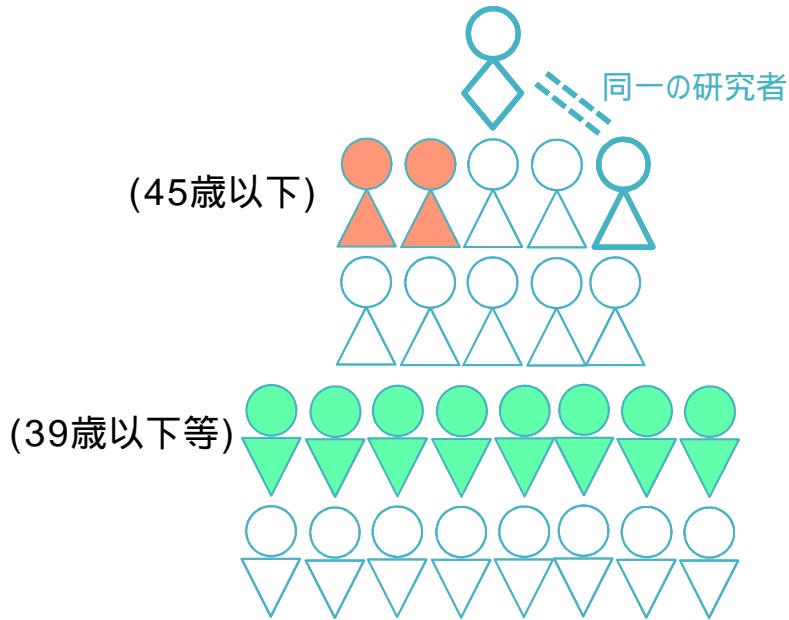
- 目的：多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指し、共同研究や設備の共用化等の取組を通じて提案研究領域を発展させる研究。
- 応募金額：5,000万円～3億円程度（1研究領域/年）
真に必要な場合は応募上限額を超える申請も可能
- 研究期間：5年間
- 領域構成：総括班・計画研究（1）・公募研究（2、3）
 - 1 次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下の研究者）を研究代表者とする計画研究（総括班を除く）が、複数含まれる領域構成。
 - 2 公募研究の総採択件数の半数程度が若手研究者（博士の学位を取得後8年未満又は39歳以下の博士の学位を未取得の研究者）となるよう若手研究者を積極的に採択。
 - 3 採択目安件数が15件（従来は10件）、又は領域全体の研究経費の15%（従来は10%）を上回るよう設定。

・学術変革領域研究（B）

- 目的：次代の学術の担い手となる研究者による少数・小規模の研究グループ（3～4グループ程度）が提案する研究領域において、より挑戦的かつ萌芽的な研究に取り組むことで、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化につながる研究領域の創成を目指し、将来の（A）への展開などが期待される研究。
- 応募金額：5,000万円まで（1研究領域/年）
- 研究期間：3年間
- 領域構成：総括班（4）・計画研究（5）
 - 4 領域代表者は、次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下の研究者）であること。
 - 5 次代の学術の担い手となる研究者を研究代表者とする計画研究（総括班を除く）が、複数含まれる領域構成。

学術変革領域研究（A）の研究領域構成のイメージ

多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、**これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導する**とともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指し、共同研究や設備の共用化等の取組を通じて提案研究領域を発展させる研究。



- (1-1) 次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下の研究者）を研究代表者とする**計画研究（総括班を除く）が複数含まれること**
- (1-2) **公募研究**の総採択件数の半数程度が**若手研究者**（博士の学位を取得後8年未満又は39歳以下の博士の学位を未取得の研究者）となるよう**若手研究者を積極的に採択**
- (2) 5,000万円～3億円程度（1研究領域/年）
真に必要な場合は応募上限額を超える申請も可能
- (3) 5年間

学術変革領域研究（B）の研究領域構成のイメージ

次代の学術の担い手となる研究者による少数・小規模の研究グループ（3～4グループ程度）が提案する研究領域において、**より挑戦的かつ萌芽的な研究に取り組むこと**で、**これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導する**とともに、我が国の学術水準の向上・強化につながる研究領域の創成を目指し、**将来の（A）への展開**などが期待される研究。

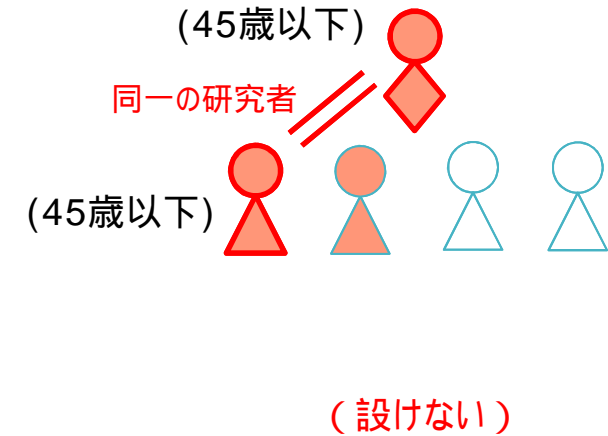
〔総括班〕
「研究代表者」= 領域代表者



(1) 領域構成

(2) 応募金額

(3) 研究期間



- (1-1) **次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下の研究者）を領域代表者とすること**
- (1-2) 計画研究は**4課題程度**とし、次代の学術の担い手となる研究者を研究代表者とする**計画研究（総括班を除く）が複数含まれること**
- (1-3) 公募研究は**設けない**
- (2) **5,000万円まで**（1研究領域/年）
- (3) **3年間**